

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、12月15-16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。

声明文では、前回の議事録で予告されていた通り、資産買入に関するフォワードガイダンスが強化され、資産買入の継続期間が「今後数カ月間」から「最大雇用と物価安定の目標に向けて一段と著しい進展が見られるまで」との表現に変更されました。一方、一部の市場参加者の間で予想されていた、買入資産の増額や平均残存期間の長期化による追加金融緩和は見送られました。

FOMC参加者の経済見通し(中央値ベース)については、GDP成長率の見通しが20年を▲3.7%から▲2.4%に、21年が+4.0%から+4.2%に引き上げられ、失業率の見通しは20年を7.6%から6.7%に、21年が5.5%から5.0%に引き下げました。インフレ率の見通しは20年を+1.2%で据え置き、21年を+1.7%から+1.8%に引き上げました。FF金利予測(ドットチャート)については、前回と同じく、中央値で23年まで現状維持(0.125%)の予想が示されました。

図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2020年	2021年	2022年	長期見通し
GDP成長率	-2.4%	4.2%	3.2%	1.8%
(前回9月)	-3.7%	4.0%	3.0%	1.9%
失業率	6.7%	5.0%	4.2%	4.1%
(前回9月)	7.6%	5.5%	4.6%	4.1%
PCEデフレーター	1.2%	1.8%	1.9%	2.0%
(前回9月)	1.2%	1.7%	1.8%	2.0%
コアPCEデフレーター	1.4%	1.8%	1.9%	-
(前回9月)	1.5%	1.7%	1.8%	-
FFレート	0.125%	0.125%	0.125%	2.5%
(前回9月)	0.125%	0.125%	0.125%	2.5%

※GDP成長率、PCEデフレーター、コアPCEデフレーターは各年10-12月期の対前年比、失業率は10-12月期の平均値、FFレートは各年末ベース

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)



出所:FRBより弊社作成

市場の反応

米国株式市場では、FOMCで追加緩和が見送られたことから、NYダウはやや下落しましたが、その後、共和党のマコネル上院院内総務が経済対策協議について楽観的な見方を示したことを受けて、下げ幅を縮小し、前日比44.77ドル安の30,154.54ドルで終わりました。米国債券市場では、FOMCの発表を受けて10年国債金利は一旦上昇しましたが、その後、パウエル議長が追加緩和の可能性について言及すると、上昇幅を縮小しました。外国為替市場では、FOMCの発表後、ドルが一時買われましたが、すぐに反落、円相場は1ドル=103円台前半で終わっています。



(期間)2019/12/31~2020/12/16、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、フォワードガイダンスに関する文言修正に留まり、買入資産の増額や平均残存期間の長期化は見送られ、概ね市場予想通りの結果となりました。

コロナ感染拡大防止のために経済活動が制限される中、いま金融緩和で景気を刺激することが時宜にかなうかどうかは微妙な問題でした。いまの米国経済に必要なものは、追加金融緩和ではなく追加財政政策だとの見方に立てば、米議会が財政協議で合意に至る可能性が高まる中、今回の追加緩和見送りは妥当な判断と言えると思います。

大半のメンバーが23年までの政策金利の据え置きを予想したことから、当面は緩和的な政策が継続する見通しです。今後もFRBは、政府の財政政策と歩調を合わせながら、柔軟な金融緩和策で景気回復を支えていくものと予想しています。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
1月	20-21日:日銀金融政策決定会合	26-27日:FOMC	21日:ECB理事会

出所: Bloomberg